

平成28年度第2回愛知県健康づくり推進協議会議事要約

- 【日時】平成29年2月3日(金) 午後3時から午後5時
【会場】愛知県議会議事堂5階大会議室
【委員】出席 12名、欠席9名
【事務局】17名
【傍聴者】なし
【内容】

1 挨拶（愛知県健康福祉部保健医療局長 松本 一年）

○この会議では、7月に開催した第1回に引き続き、本県が目指している「健康長寿あいちの実現」に向けて、健康づくりに関する3つの計画について、協議する。

○それぞれの計画では、部会を開催し、今年度の評価と進捗等についてご検討いただいた。各部長においては、格別のご尽力をいただいたことを、この場をかりてお礼申し上げます。

○来年度は3計画とも見直し、中間評価を行う予定としているため、本日はそのスケジュール等について示す予定である。

○委員の皆様の共通の願いは県民の健康・安全・安心だと思う。そうした共通の願いに向かって、共に考え、行動していきたい。

2 議題

(1) 各計画の平成28年度進捗状況及び平成29年度見直し（中間評価）の進め方について

ア 健康日本21あいち新計画

イ 愛知県がん対策推進計画（第2期）

ウ 愛知県歯科口腔保健基本計画

(2) 健康づくり施策の現状と今後の方向性について

3 報告

受動喫煙防止対策の強化について

4 その他

<主な意見>

○医療保険者を評価する指標として、がん健診や特定健診の受診を勧めると、保険者としてポイントが付与されるインセンティブ制度が新たに始まる。平成28年度からは市町村においては保険者努力支援制度が始まっているのでその周知を取り組んでいく。そして取り組んでいない市町村に対して県がしっかりアプローチしていくことが大事。

○所得格差が歯の残存本数に影響しているという事実が国の調査である国民健康栄養調査でも出ている。歯科口腔部会の中で社会、経済格差についての議論は出てきていないが、今回の生活習慣関連調査の中で確認できる項目もあるので、歯の健康状態とどう関わっていくのか、今後見ていきたい。

○新しく策定された市町村の健康づくり施策の計画は個性のある面白いものになってきている。計画そのものに住民関わり、興味を持つような仕組みの計画を市町村が作ろうとしていくことが大事なのではないか。

○市町村においては全体を見て健康づくり施策計画の評価をすることが難しく、計画がどこまで進んでいるのか判断するのが難しいので、保健所の助言をいただきたい。市としての強みと弱みを見ながら計画を立てているが、保健所から広域的な観点で助言をいただけるとたいへん助かる。

○がん対策について、昨年12月に法律が改正になり、教育についての項目が加えられた。各大学などで出前の授業やメニューが充実しているので、学校教育だけではなく地域や企業も活用し、教育の対象を広げながら次の計画に盛り込んでみてはどうか。

○行政は独りよがりになりがちで、住民一人一人に知らしめることをしないことが問題。また、行政には実行部隊と呼べるものがないので、現場において、住民の方と一緒に計画に取り組むことが課題。

○認知症患者の余命は10年であり、健康寿命と平均寿命の差が10年とちょうど当てはまっており、認知症が健康寿命に影響を与えていると考えられる。認知症の予防には生活習慣病が大きいと思う。会社員への教育や退職後の高齢者のサロンや老人倶楽部などでの教育、取組が少ないように思われる。また多種類の食事、特に和食と牛乳を取り入れることで認知症が40%減するというデータがある。

○歯科領域について、在宅歯科の研修が長年行われているが、在宅の歯科医師が、医師会が設置している在宅医療センターとの連携や、40%の市町村が導入しているタブレット端末との連携はどうなっているか。在宅の歯科医が開業の歯科医とどういう風に連携できるのか具体的な目標や達成項目があるといい。また、歯科衛生士の活用が重要だと思うので、歯科衛生士が幅広く活躍できるシス

テムがあるといい。悪くなる前の予防ができれば8020も楽々達成できるのではないか。

○8020運動は平成元年から始めており、初年度は241人、今年度は6916名が表彰されている。またウエルネス8020ということで、0歳児から後期高齢者まで全般的な歯科の対策を行っていく。

○幼児期から成長期、また特定健診が始まる壮年期から高齢者についても食事への意識づけができていますが、20代、30代の単身者が問題。例えば朝食の欠食についても、学童期については欠食をする割合が下がってきているのに対し、20代、30代の欠食をする割合が多い。自己管理できるはずの20代、30代にどのような対策をしていくのか検討していただきたい。

○特定健診を受診した2600万人データを分析すると、40歳の男性が一番結果が悪い。20歳から10キロ以上増えている人を分析するとメタボの方が8割いる。メタボになってからではなく、20代、30代の対策が重要。30歳、35歳の節目にしっかり健康対策を行う企業が増えてきており、会社が全社員を連れてきて対策を始めている企業もある。健康対策は意識付けだけでは対策できない部分もあるため、働き方と合わせて検討していただきたい。40歳代から喫煙率は下がっていくので、その前の年代に重点を置くことが大事。